

週報 第3337回

会長 杉本 憲一 副会長 中 透
幹事 細川 嘉則 SAA 川崎 久典

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
TEL 0725-20-1121
例会日時 毎週金曜日12:30~13:30



事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F
TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501
メールアドレス info@izumiotsu-rc.org
ホームページ http://izumiotsu-rc.org



今週の例会 (2026年5月29日) 第3337回

■ プログラム

卓話担当 森口 和信 会員

■ 次週のプログラム

6月 5日: クラブアッセンブリー
各奉仕部門担当理事

■ 今後の予定

6月 12日: 卓話担当 泉谷 仁博 会員

■ 祝 誕生日

森田 真一郎(1日)

■ 今月のロータリーソング

我等の生業

今月の歌

茶つみ

夏も近づく 八十八夜
野にも山にも 若葉が茂る
あれに見えるは 茶つみじゃないか
あかねだすきに すげの笠

■ 先週の例会

会長の時間



杉本 憲一 会長

今日は杉本産商(株)の主力であった羽毛布団について
羽毛布団が「家庭のあたりまえ」になるまでには、農業・
繊維・国際貿易が繋がった長い産業の歴史がありま
す。世界の流れを、段階ごとに追ってみます。

羽毛が「商品」になるまで 家内工業から地域産業へ

中世~近世ヨーロッパでは、ガチョウやカモを飼う農
家が、肉や脂だけでなく羽毛も大事な副産物として活
用し、家族で手作業で選別して枕や布団に仕立ててい
ました。

特にハンガリーなど中欧では、農村ごとにガチョウ飼
育が根つき、十九世紀の終わりごろには「羽毛を扱う

職人仕事」が一つの産業として意識され始めます。

高品質産地の形成

寒冷な気候とガチョウ飼育の伝統から、ハンガリーは二十世紀に入るところには世界有数の羽毛産地となり、「ハンガリーグースダウン」が品質の高さで知られるようになります。

同様にドイツなどでも、ガチョウ品種の改良と管理が進み、「ドイツ産ホワイトグースダウン」が高級羽毛として国際的なブランド価値を持つようになりました。

近代産業としての羽毛加工

羽毛加工工場の登場

十九～二十世紀にかけて、ヨーロッパ各地で羽毛の洗浄・乾燥・選別を専門に行う工場が登場し、家内工業から工業生産へとシフトします。

ハンガリーでは農家から集めた羽毛を大量に処理できる設備が整い、国家主導の生産・輸出体制のもと、1980年代には中国に次ぐ世界第二位のグースダウン輸出国にまで成長しました。

国際サプライチェーンの確立

現代の羽毛布団用のダウンは、多くが食肉用のガチョウ・カモ産業の副産物として集められ、次のような流れで世界中を動いています。

段階	内容	主な地域
農場	ガチョウ・カモ飼育、副産物として羽毛回収	中国、中東欧など
集荷・一次選別	羽毛の粗選別・圧縮梱包	生産国全域
加工工場	洗浄・殺菌・乾燥・グレード分け	ハンガリー、ドイツなど
縫製メーカー	布団・枕などに加工	欧州、アジア各国
ブランド・小売	世界の小売店・通販で販売	欧米、日本など

このように、農業と繊維工業、国際物流が一体となって「羽毛寝具産業」が成り立っています。

二十世紀後半～世界市場の拡大

欧米ブランドと世界展開

二十世紀には、羽毛寝具を専門に扱うメーカーや総合寝具メーカーが欧米で次々と誕生し、羽毛掛布団のダウンコンフォーターやデュベがホテル市場や家庭用として広く流通するようになります。

アメリカなどでは、羽毛枕やコンフォーターを主力とする企業が成長し、デパートや通販を通じて一般家庭に普及しました。

日本などへの輸出

中欧の羽毛加工企業は、ヨーロッパ域内だけでなく、日本やアジア諸国にも高品質ダウンを輸出し、各国で布

団として縫製されるようになります。

二十一世紀の転換点と課題

倫理・環境への意識

二十一世紀に入ると、動物福祉や環境負荷への関心が高まり、生きた鳥から羽毛をむしる「ライブプラッキング」への批判、トレーサビリティを求める動きが強くなりました。

世界的な企業がこうした羽毛の使用をやめ、認証を受けたダウンに切り替えるなど、産業全体で基準づくりが進んでいます。

リサイクルダウンと循環型ビジネス

同時に、資源の有効活用という観点から、使わなくなった羽毛布団を回収し、羽毛を洗浄・再利用する「リサイクルダウン」の取り組みも広がっています。

日本などでは、産学連携のプロジェクトとして羽毛の回収・再生を行い、循環型の羽毛産業をめざす動きが始まっています。

いまの羽毛布団ビジネスの特徴

現代の羽毛布団産業には、次のような特徴があります。

- ・原料の多くは食肉産業の副産物としての羽毛
- ・中国や中東欧などの生産国で集荷・加工され、欧州や日本で高級品として縫製・販売
- ・フィルパワーや産地表示など「品質ラベル」によるブランド化
- ・動物福祉認証やリサイクルダウンなど、サステナビリティ(資源を無駄にしない、長く使える品質、廃棄・リサイクルの工夫)を前面に出した商品展開

日本に羽毛布団が入ってきた時代

日本で「羽毛布団」という形が一般に知られるようになるのは、戦後しばらくたってからです。

昭和30～40年代ごろ

外国の寝具スタイルの影響を受けながら、国内でも羽毛を扱う企業が登場し始め、羽毛布団が生産されるようになります。とはいえ当時は高級品で、まだ一部の人の寝具でした。

昭和40年代以降

羽毛の洗浄や精製、側生地縫製などの技術が整い、「羽毛ふとん」としての商品が徐々に普及します。このころはまだ贅沢品というイメージが強かったとされています。

花柄羽毛布団と昭和～平成の家庭

昭和後期から平成初期にかけて、多くの家庭で見かけ

たのが、ピンクやえんじ色の大きな花柄の羽毛布団です。

こうしたデザインは、和服や着物の柄から着想を得て生まれ、日本の住宅や婚礼布団に合う「華やかさ」が重視されていました。

その後、量販店の台頭や大量生産技術の確立により、比較的手頃な価格の羽毛布団が登場し、一般家庭にも一気に広まっていきます。

経済産業省「生産動態統計」をもとにした業界紙のまとめでは

- ・最近の日本国内の肌掛けを含めた羽毛・羽根ふとん生産枚数は約90万枚。
- ・輸入枚数は約210万枚
- ・市場としては約300万枚規模です。

ダウンとフェザーの違い

ダウンとフェザーはどちらもガチョウ、カモの羽ですが、ダウンは芯のない綿毛状で空気を多く含み軽くて非常に暖かく、フェザーは芯(羽軸)のある羽根で弾力はあるが保温性はダウンより低く重くなりやすいという違いがあります。一般に布団やジャケットでは、ダウンが多いほど軽くて暖かく、高価になります。

日本の布団などでは、ダウンとフェザーの割合で呼び方が変わります。

ダウンが50%以上 … 羽毛布団と表示

フェザーが50%以上 … 羽根布団と表示

「ダウン90%・フェザー10%」のような表記ほど、ふんわり軽くて暖かいイメージになります。

立体キルトと平縫いキルト

羽毛布団の「平縫いキルト」は、表生地と裏生地を直接まっすぐ縫い合わせてマス目を作るキルティング方法を指します。平縫いキルトは次のような性質があります。

- ・縫い目部分から熱が逃げやすい
- ・その分、軽くて通気性がよい
- ・春夏向けの「ダウンケット」「肌掛け布団」によく使われる

立体キルトは、羽毛布団のマス目同士をマチ布でつないで「厚みのある箱状」に仕切った縫い方のことです。これによって、羽毛がつぶれにくく、マス目ごとにふくらみ膨らみやすくなります。一般的な冬用の羽毛布団で一番よく使われる仕様です。

- ・羽毛がしっかり膨らみ、保温性が高くなりやすい

- ・マス目ごとに仕切ることで、羽毛が片寄りにくい
- ・体へのフィット感が良くなり、隙間から熱が逃げにくい

ライブブラッキングとは

「ライブハンドブラッキング」の略として使われることが多く、生きた鳥からダウンフェザーをむしり取る採取方法を指します。

ダウンは水鳥の胸やお腹の柔らかい羽毛で、これを鳥を殺さず何度もむしる方法が「ライブハンドブラッキング」と呼ばれています。

羽毛布団でいうトレーサビリティとは

羽毛布団のトレーサビリティは、その布団に入っている羽毛が「どこの国の、どんな農場・工場を通過して、どのメーカーで布団になったか」をたどれる仕組みのことです。

幹事報告

細川 嘉則 幹事

- 週明け5月18日(月)ですが、事務局休みになりますので、ご承知おきくださいますようお願い致します。
- 来週5月22日(金)の例会は、24日(日)に70周年記念式典と祝賀会を開催しますので、定款第7条第1節の規定により例会休会になります。ご注意くださいようよろしくお願い致します。

委員会報告

- 本日例会終了後、くすのきの間におきまして式典のリハーサルを行いますので、委員会メンバーの方は参加のほどお願い致します。記念式典・祝賀会後の2次会の出欠まだの方、川崎さんの方までご連絡いただければと思います。奮ってご参加のほどお願い申し上げます。(松内 俊夫 70周年実行副委員長)
- 再来週の5月29日(金)森田会員様のボスコリサイアを貸し切りまして、家庭集会を行いますのでご出席の方、よろしくお願い致します。本日、会費徴収させていただきます。ありがとうございます。(松内 俊夫 会員増強委員長)
- 本日例会終了後、次年度の親睦活動委員会をみやびの間で行いますので、関係のある方は出席の方よろしくお願い致します。(西端 政博 次年度親睦活動委員長)

■ ビジター

なし

■ 出席報告 会員数40名 出席免除 0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
5/15	36名	4名	—	90.00%
4/24	33名	7名	1名	85.00%

■ メークアップ

榎本(4/21 ワールド大阪ロータリーEクラブ)

■ ニコニコ箱

- ・藪野会員、本日 卓話よろしくお願ひします(杉本)
- ・藪野会員、本日の卓話よろしくお願ひいたします(細川)
- ・藪野様、本日の卓話よろしくお願ひします(川崎)
- ・本日は藪野さん、卓話宜しくお願ひ致します(南出)
- ・うれしい事がありました(寺田)
- ・嬉しい事がありました。欠席のお詫びです(根尾)

ニコニコ箱合計	18,000円
累計	643,500円

先週のプログラム

「もう一度女性天皇と女系天皇」



卓話担当 藪野 信 会員

女性天皇と女系天皇

女性天皇と女系天皇は一見近しいものに思えますが、全く違います。

女性天皇とは文字通り女性の帝。父方が天皇家の女性が帝になるもの。これに対して女系天皇とは、母方が天皇家の人間が帝になるもの。

女性天皇は「八方十代」といって、八人の女性が十度天皇に即位した記録が残っています。(二人が重祚(2度即位すること)したため数が合いません。)しかし、女系天皇は我が国の歴史上、一人も存在していません。

2686年まえに初代神武天皇が即位して以来、天皇家は連綿と父方の血を受け継いできました。

歴史上、天皇が最高権力者であった時期というのは以外と短く、ほとんどが現在と同じ象徴天皇でした。それぞれの時代には天皇をしのぐほどの権力を持つ人間が常に存在しました。明日香時代の蘇我氏に始まり、藤原摂関家、鎌倉から江戸にかけての歴代幕

府、皇室と外戚関係を結び天皇を思いのまま操った人間は数多いましたが、自らが天皇になった人間は一人もいませんでした。

長い歴史のなかには、現代と同じように天皇家の男系男子継承が風前の灯火となったことも何度かありました。そのたびに過去の例(先例)を参考にして難局を乗り越えて今に至ります。

「天皇家の男系継承を続ける。」ということは長い年月のなかで伝統を超越した正統になり、即ち日本の「国柄」となりました。

国会では、女性宮家、女系天皇の創出がかまびすしく言われていますが、その前に先例に従いやるべきことは、まだたくさんあります。

軽々な論調のみが一人歩きすることは、世界一古い王室である我が国皇室の2686年の歴史を一瞬にして葬り去り、皇室の正統を守ってきた先祖にも、これからの日本を生きる子孫にも申し開きのできない愚行につながる恐れがあります。いまこそ正しい知識に基づいた議論が必要とされています。

会長挨拶

本日はご多用の中、泉大津ロータリークラブ創立70周年記念式典にご臨席を賜り、誠にありがとうございます。

南出賢一泉大津市長様をはじめ、ご来賓の皆様、関係諸団体の皆様、そして日頃より当クラブの活動に温かいご理解とご支援を賜っておりますすべての皆様に、心より御礼申し上げます。

さて、私ども泉大津ロータリークラブは、昭和31年(1956年)堺ロータリークラブのスポンサーによりまして結成された多数の有志によるロータリークラブ創設に向けての泉大津クラブの第1回の会合が5月4日に開催されました。会員の選出については会員資格、職業分類等ロータリーのルールに添いつつチャーターメンバー27名が決定しました。

そして、5月17日付をもって国際ロータリーの認証が行われ遂に待望の大阪府下8番目の泉大津ロータリークラブが誕生しました。

それから70年。本日ここに70周年という大きな節目を迎えることができました。

この節目は、単に年月の積み重ねではなく、地域とともに歩み続けてきた歴史の証であります。

泉大津市は、古くより繊維のまちとして発展してまいりました。

特に毛布をはじめとする繊維産業は全国に名を知られ、まさに「ものづくりのまち」として日本の経済成長を支えてきた歴史があります。

先人たちは、厳しい時代の中でも技術を磨き、品質を高め、地域の産業を守り育ててこられました。

そのひたむきな努力と誇りこそが、今日の泉大津の礎であり、私たちが受け継ぐべき大切な財産であります。本クラブが創立されたのも、まさにそのような時代背景の中でありました。

地域に根ざした企業人、職業人が集い、「地域に恩返しをしたい」「社会に貢献したい」という志のもとに結成された泉大津ロータリークラブは、泉大津というまちの発展とともに歩んでまいりました。

その後、時代は大きく移り変わりました。

産業構造の変化により、繊維産業もまた大きな転換期を迎えましたが、泉大津市はそこにとどまることなく、新たなまちづくりへと歩みを進めてきました。

阪神高速道路湾岸線を活かした物流拠点としての発

展、スーパー、ホテル、飲食店等の生活環境の整備、市民にとって安心・安全で暮らしやすいまちづくり、さらに近年では、だんじり祭りなどの地域資源を活かした取り組みや、持続可能な社会に向けた施策など、新たな挑戦が続けられています。

このような泉大津市の歩みは、「変化を恐れず、前に進む」という強い意志の表れであり、私たちロータリアンの精神とも通じるものがあると感じております。

私たち泉大津ロータリークラブもまた、この地域社会の一員として、時代の変化に寄り添いながら活動を続けてまいりました。

青少年の健全育成、地域の安心・安全への取り組み、文化・教育への支援、その活動は多岐にわたります。特に青少年の健全育成に関しては、子供食堂への支援、ダンス&マルシェへの後援・協賛、地区補助金を活用しての泉大津市の健康・医療分野への支援、さらに本年度は70周年記念事業として、市内3中学の生徒に「心の傷を癒すということ」という阪神大震災で被災した方々への精神科医の心のケアに言及した映画を観てもらい、成人、大人になっていく生徒たちに人生における心の寄り添いについて考えてもらいました。

現在の泉大津市を取り巻く環境下において、とりわけ、地域の未来を担う子どもたちへの支援は、私たちの重要な使命の一つであります。

次の世代が夢と希望を持ち、この泉大津のまちに誇りを持って成長していくことこそが、地域の持続的な発展につながると信じております。

また、ロータリーの根幹には「職業奉仕」という理念があります。

それぞれの職業に誇りを持ち、その責任を果たすことが社会への貢献につながるという考え方は、まさに泉大津のものづくりの精神と重なります。

「良いものをつくる」「信頼を積み重ねる」「地域に役立つ存在である」

こうした価値観は、時代が変わっても決して色あせることのない普遍的なものであります。

ここで改めて、これまでクラブを支えてこられた歴代会長をはじめとする諸先輩方、そして会員の皆様に、心より敬意と感謝を申し上げます。

また、本日ご臨席の皆様、地域の皆様のご支援があつてこそ、私たちの活動は成り立っております。重ねて御礼申し上げます。

ロータリーには「四つのテスト」という指針があります。
「真実かどうか」「みんなに公平か」「好意と友情を深めるか」「みんなのためになるかどうか」。

この言葉は、単なる理念ではなく、私たちの日々の行動を支える羅針盤であります。

複雑で変化の激しい現代において、このシンプルで力強い指針は、より一層重要性を増していると感じております。

これからの泉大津市は、人口減少や地域コミュニティの変化など、新たな課題にも直面していくことでしょう。

しかし、その一方で、新しい可能性もまた広がっています。

人と人とのつながりを大切にしながら、地域の魅力を再発見し、次の時代へとつないでいく。

その中で、私たちロータリークラブが果たすべき役割は、決して小さくありません。

70年という歴史は、決してゴールではなく、新たなスタートであります。

私たちはこれからも、泉大津というまちとともに歩み、地域に寄り添い、必要とされる存在であり続けることを目指してまいります。

そして、先人たちが築いてこられた伝統と誇りを胸に、次の80年、100年へとつなぐ責任を果たしてまいります。

結びに、本日ご臨席の皆様のご健勝とご多幸、そして泉大津市のさらなる発展を心より祈念申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基盤として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。

具体的には、次の各項を奨励することにある。

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

= 言動はこれに照らしてから =

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか